



KOKUSAI GAKUIN EDUCATIONAL FOUNDATION

I. 最高責任者による国連グローバル・コンパクトへの継続的支援の表明

2022年11月30日

国連グローバル・コンパクト事務所御中

学校法人国際学院

理事長

大野博之

国連グローバル・コンパクト Communication on Engagement

この文書は、学校法人国際学院が国連グローバル・コンパクト（以下「UNGC」）を継続的に支持することを表明するとともに、UNGCの10原則並びに持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けての取組を実践するために、今後も最大限努力することを誓約するものです。

本学院は、2018年にUNGCに署名して以来、主に以下に掲げる2つの領域でUNGCの活動に参加してまいりました。取組内容は、添付資料のとおりです。

1. UNGC10原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成
2. UNGCが推進するSDGsへの取組を教育課程及び課外活動に組み込み、教職員・学生生徒一丸で、SDGsを関連づけた教育プログラムを実践

本学院は、UNGCの10原則及びSDGs17目標の達成に貢献することを第V期中長期計画に示し、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神に基づき、地域社会の課題解決のみならずグローバル社会に貢献しうる人材の養成を掲げています。

今後も、次代の人材養成を責務とする学校法人としての社会的責任を担い、地域社会・日本・世界、そして未来に対しグローバル・コンパクト10原則とSDGs推進に尽力することを誓い、宣言いたします。

II. 国連グローバル・コンパクトの活動を促進する本法人の取組状況

(2020年12月～2022年11月)

1. UNGC10原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成

(1) 教育課程・教育プログラムにおける取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 卒業研究ゼミナール・卒業研究プレゼミナール

国際学院埼玉短期大学では、2019年4月から、「卒業研究ゼミ」「卒業研究プレゼミ」を開講いたしました。SDGsの取組を専門研究と関連づけ、2年間を通して学生がSDGsを理解し、課題解決に向けて自ら積極的に取り組み、その学修成果を発表する「卒業研究ゼミナール」「卒業研究プレゼミナール」をカリキュラムに位置付け、全学生を対象に実施いたしました。

また、「卒業研究ゼミ」「卒業研究プレゼミ」の学修成果の一層の充実を図るため、教育研究活動に必要な教材・費用を補助する運営費申請制度を設け、2020年4月から運用しています。この制度により、学生の経済的負担を軽減すると同時に、教育研究活動の幅を広げ、教育効果向上を促進しています。2022年度はオンライン形式にて48グループが発表し、各学科から最優秀賞1グループ、優秀賞2グループが表彰され、学内に発表内容ポスターを掲示し後輩の学びに寄与しています。

【2021年度最優秀賞】

幼児保育	特別支援教育ゼミ	重度・重複障害児・者のQOLを高めるための重要事項の支援
健康栄養	生化学・薬理学ゼミ	ブドウ糖含有食品摂取による集中力向上効果について

【2021年度優秀賞】

幼児保育	情報リテラシーゼミ	デジタル化による教育・健康への影響
	児童心理学ゼミ	子どもの社会性の発達における保育環境の比較
健康栄養	食品経済学ゼミ	食品による町おこしとサツマイモビジネス
	食と環境ゼミ	食生活における環境保全について



2) SDGs に関する授業科目開講状況

「卒業研究ゼミ」、「卒業研究プレゼミ」、「日本文化と国際理解」、「キャリア教育Ⅰ・Ⅱ」
「地球と環境」、「埼玉学」、「海外研修」

3) 五峯祭、幼児絵画展、味彩コンテストの実施

① 五峯祭

大学祭「五峯祭」は、日頃の学修成果を発表する場であるとともに、地域の人たちとつながる、日々の教育・研究成果の発表の場です。地域との連携だけでなく、SDGs の目標達成に向けた取り組みも行っています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染拡大防止に配慮しながら実施いたしました。



② 幼児絵画展

幼児絵画展は、埼玉県内の幼稚園や、保育園などに通う子どもたちを対象とした絵画展です。幼児教育における表現活動への興味・関心を高めるとともに、地域との連携を深め、地域社会における、未来を担う幼児教育の振興に貢献することを目的としています。2022年度は近隣幼稚園・保育所等100園から709点の応募がありました。



③ 味彩コンテスト

味彩コンテストは、食育（食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けること）と地産地消（安全・安心な食生活のため、地元で生産されたものを地元で消費すること）を目的に開催しています。2022年度は一般の部165点、高校生の部190点、合計355点の応募がありました。

地産地消は、地元で生産されたものを地元で消費することで、運搬等によって発生するCO₂の削減にも繋がります。このため、地産地消は、大変重要なSDGsの取組といえます。



4) オープン・エデュケーションツールの公開

本学では、持続可能な社会の実現をテーマとした本学の教育リソースを広く無償で提供し、教材や自主学修ツールとして利用してもらうことを目的に、ホームページで公開しています。

現在、ダイバシティ&インクルージョンの考えに立った幼児教育の取組に関する次の教材を公開しています。(全6回シリーズ。第3回まで公開)

櫻井康博・学長特別補佐による特別講座 「先生の悩みに答えます」

- 第1回 ペースがなかなかつかめない子ども
- 第2回 指導がうまくできない子ども
- 第3回 集団活動に入りにくい子ども

5) 海外研修

本学では、国際社会の中で信頼された「人」となるために、学生が海外を訪問し、現地における実習を中心に学修していく、「海外研修」という授業科目を解説しています。コロナ禍の中、海外における研修ができないことから、この授業の趣旨を踏まえ、取組を実施いたしました。

① 国内研修旅行

明治時代以降、日本における、欧米や中国など諸外国との国際交流窓口の一つとなってきた、国際港湾都市である横浜市を研修場所とし、異文化や価値観の異なる人々を理解し、共生していこうとする姿勢を学ぶとともに、国際社会の一員としての意識を涵養しました。

② 海外で活躍する卒業生との意見交換

現在、JICA の海外青年協力隊としてキルギス共和国に派遣され、現地の調理師養成職業訓練校で日本料理を指導している本学卒業生とオンラインによる意見交換を行いました。言葉の壁に苦労しながらも、歌や趣味など様々なコミュニケーションツールを駆使し、異文化交流を実践している先輩の経験談は、何にも勝る授業となりました。

【国際学院中学校高等学校】

1) 卒業研究発表会

本校の特色ある取り組みの1つに、「主体的に学んで発表する」探究学習が挙げられます。そのハイライトとなるのが高校3年の卒業間際に行う卒業研究発表会です。生徒たちは2年次から取り組み、研究テーマはSDGsの目標いずれかに絡めています。高校生活の集大成として、多くの人を前に自信を持ってプレゼンテーションを行いました。

(全日制課程発表会)



(通信制課程発表会)



2021年度 高校全日制課程 代表9タイトル (オンライン配信)

- ・ 離乳食について
- ・ 音楽を利用した学習法の可能性
- ・ なぜ人は筋肉がつるのか
- ・ 『源氏物語』から読み解く現代と昔の恋愛観
- ・ ピアノでみる基礎心理学
- ・ 若者の職業観について～ポジティブのすすめ～
- ・ コロナ禍によるペット問題
- ・ 漫画の歴史と社会問題
- ・ ゲーミフィケーションについて

◎最優秀賞 「音楽を利用した学習法の可能性」

2021年度 高校通信制課程 第3学年生徒11名 (動画発表)

◎最優秀賞 「小江戸 川越の文化 ～川越から学ぶ木綿遺産の持続的継承～」

2) 五峯祭

“五峯祭” (いつみねさい)とは、本校の文化祭の名称で、建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の5つの言葉を山の峯に例えているところに由来します。毎年9月に開催している五峯祭は、生徒たち日頃の学習成果を披露する場となっており、また、地域の人たちと繋がり、さらに、SDGsを学ぶ場となっています。2022年は3年ぶりに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、来場型の実施を行いました。

2021年 オンライン開催

テーマ「Moon Shot」

最優秀賞「密着射撃部 2021-全国大会の裏側-」

2022年 来場・オンライン併用開催 来場者 532名 (2日間)
テーマ「Next Stage ～さらなる高みへ～」
最優秀賞「SDGs アドベンチャー」

3) オンライン国際交流の推進

台湾台北松山先端産業農業専門学校生徒達と本校全日制課程の中高生による、オンライン国際交流会は、台湾の高校生たちとリアルタイムで交流できる、大変貴重な機会となっています。

交流においては、メインテーマとして「プラスチックごみによる環境汚染問題」が扱われ、双方の生徒間で様々な意見交換がなされました。最後には自由な質疑応答時間も設けられ、明るい雰囲気での閉会となりました。

また、高校通信制課程では、オランダの学校 (Alfrinkcollege Deurne) とカルチャーボックス (折り紙の作品や日本のアニメーションTシャツ、お菓子など) の交換を行いました。今後も学校紹介ビデオの交換を予定するなど交流の場を広げております。



4) ユネスコスクール活動の推進

本校では 2010 年にユネスコスクールに加盟して依頼、世界遺産に関する講演会や様々な海外との交流など、積極的に ESD (持続発展教育) に取り組んでいます。

ユネスコスクールでは、

- ・地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ・人権、民主主義の理解と促進
- ・異文化理解
- ・環境教育

の 4 つをテーマとして、ESD (持続発展教育) に取り組んでいます。

○リサイクル活動

生徒一人一人の小さな活動が大きな取組につながることを実感するためにさまざまなリサイクル活動に積極的に取り組んでいます。



○異文化学習会

埼玉県に在住する外国の講師の先生方に来校してもらい、異文化理解を深めようとする本校の伝統行事です。

各国の社会、学校の様子、言語などその国を理解するため基礎的な知識や音楽や舞踊などの実演が行われ、参加生徒は異文化理解の方法論を学びます。



2021年は、10か国（イタリア、アルゼンチン、コロンビア、マレーシア、フィリピン、カンボジア、パラグアイ、中国、台湾、韓国）の方に講師をしていただきました。

5) 道徳の中でDRRを考える

グローバルコンパクトの加入校である本校では、道徳の時間に、中学生徒会が主導して、防災減災(DRR)についての話し合いを行いました。本校に備蓄されている緊急用保存食などの防災グッズを、自分たちの目で見直し、改めて緊急時に必要なものを決めていきました。



6) 研修旅行（SDGs 研修と世界遺産研修）

2022年度、高校全日制課程の第2学年では、海外研修の代替として、SDGs 研修を、北海道、沖縄、九州（長崎・福岡）、関西（神戸・大阪・京都）の4箇所にて実施しました。それぞれの地域にて、環境問題や歴史についての考えを深め、平時に学んできたSDGsに関する事項について、体験的に学ぶ研修を行いました。同様に高校通信制課程においても全学年を対象に、関西（滋賀・京都・大阪）にて研修を行いました。

中学第2学年では、広島・京都・奈良にて、世界遺産研修を実施しました。広島では平和に関する学習を、京都奈良では歴史に関する学習を、それぞれ世界遺産を巡るフィールドワークにて行いました。



2. UNGC が推進する SDG s への取組を教育課程及び課外活動に取り組み、教職員・学生生徒一丸となって、SDG s を関連付けた教育プログラムを実践

(1) 学生生徒の自主的・主体的取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 学生政策提案フォーラム

本学が所在する「さいたま市」が、次の目的で実施する“第 11 回学生政策提案フォーラム”に、本学の 2 つの学生グループが主体的に参加しました。SDG s に関する、学生の行動変容の証と認められる取組です。

<参加学生グループ>

- ・造形デザインゼミ（政策提言：さいたまにじいろ WEB の提案 参加学生：9 名）

<発表テーマ>

誰一人取り残さない (leave no one behind)

～性的少数派 (LGBTQ) の方々がよりよく過ごせる街づくりを提案～

- ・臨床栄養学ゼミ（政策提言：健康寿命延伸のために、美味しく食べよう
参加学生：3 名）

<発表テーマ>

健康寿命延伸のために、美味しく食べよう

～フレイル・サルコペニア予防のために今から取り組むべきこと～

(学生政策提案フォーラムの目的)

誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と思えるさいたま市の実現にむけ、SDG s の概念を取り入れ、「誰一人取り残さない」持続可能な都市の実現のために、さいたま市総合振興計画に掲げる 11 の分野について学生から政策・事業の提案を求める。



2) 学友会主体的活動

コロナ禍の中、学友会活動にも大きな制限がありました。エコキャップ運動やユニセフ（国連児童基金）への使用済み切手寄付など、SDGs と関連する取組を地道に行いました。学友会の主体的活動はすべて学友会定時総会にて報告するとともに、「学友会広報 RING」に掲載し、全学共有を図っています。

2021 年度学友会主体的活動

- ① エコキャップ運動：NPO 法人キャップの貯金箱推進ネットワークへ提供
重量 15.80 kg 、個数 6,794 個、寄付金 158 円ポリオワクチン 7.9 人分
- ② ダメゼットイ国連支援募金運動 募金金額：1,637 円
- ③ ウクライナ難民支援のためのユニセフ寄付金 募金金額：20,908 円
- ④ タウンミーティング参加 学友会会長と副会長がさいたま市長と意見交換会に参加
- ⑤ 埼玉鉄道痴漢犯罪防止連絡協議会 チカンを撲滅のための自主的啓発活動に参加
- ⑥ 開発途上国の子どもたちを守る活動のためユニセフへ使用済み切手（172 g）提供

特に、ウクライナに関する報道を見るたび心が痛んだ学生たちが、なにか私たちにできることはないだろうか、と検討し、卒業式当日に式典会場に募金箱を設置し、学生や保護者、教職員にウクライナ難民支援を呼びかけました。総額 20,908 円の善意を寄せていただき、全額を日本ユニセフ協会を通じ、「ウクライナ難民支援緊急募金」に寄付しました。



3) 農業体験

学生の自主的な活動として、地域の農業者の協力を得て、さいたま市の伝統野菜であるサツマイモの“紅赤”を、学生が育て、収穫し、加工・製品化するという取組を続けています。学生たちは、農作業の体験を通じ、自然環境を持続させることの重要性を学び、また、収穫し製品化することで、地産地消が持続可能な社会の実現に果たす役割を学んでいます。

【国際学院中学校高等学校】

1) SDGs エコフォーラム in 埼玉への参加

2021年1月30日に大宮ソニックシティにて開催された「SDGs エコフォーラム in 埼玉」の高校生スピーチの部で、本校生徒が、自らの緑のトラスト運動に関する取組の経験と本校のSDGsの取組について発表を行いました。参加企業の方からも褒めの言葉をいただきました。



2) ウクライナ難民支援のための緊急募金活動

本校の生徒会が、ユネスコスクールの一員としてユネスコ憲章で示された理念を学校現場で実践するために、3日間にわたって、ウクライナ難民支援のための緊急募金活動を行いました。募金活動で集めた金額は14,487円となりました。

また、チャリティ英単語グランプリ開催で得たチャリティ金額4,200円となりました。この二つの取組を合わせた18,687円を、公益財団法人日本ユニセフ協会のウクライナ緊急募金に募金を行い、ウクライナから避難した子どもたちが一日でも早く、通常の平和な生活に戻れることを国際学院中学校高等学校一同、心から祈念しました。



3) 緑のトラスト募金運動

本校では、生徒会を中心に「緑のトラスト募金」活動を行い、募金額は3,592円となりました。募金者の善意を、埼玉県自然保全に役立つ取組を行っております。

4) 生徒による人命救助活動

本校生徒が、通学途中、病気の発作のため道端でうずくまっている男性を、とっさの判断で人命救助活動を行いました。

2022年5月16日の埼玉新聞に掲載され、人の命を守るという心が現れた行動に、多くの反響が寄せられております。

(2) SDGs 推進に向けた全学(校)的取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) さいたま市と連携した SDGs 推進事業

本学は、さいたま市食品ロス削減プロジェクト「チーム Eat All」に参加し、食品ロスをテーマにした卒業研究や、五峯祭(大学祭)でのフードドライブへの協力、廃棄の極力少ない調理実習等、食品ロス削減に取り組んでいます。こうした大学全体の食品ロス削減に向けた取組を、ホームページ等で地域に発信し、地域社会全体の SDGs に向けた取組を促進しています。

また、学生や教職員と関東農政局が開催した食品ロス削減に向けた意見交換会では、本学学生から食品の消費期限を伸ばす方法等の提案や、調理実習で出汁をとるために使用した昆布やかつお節を活用した「エコふりかけ」作成の実践例の紹介がありました。

このほか、ペットボトルの削減を目指し、2021年9月から12月の3か月間、学内4か所にウォータ・サーバーを設置し、ペットボトル使用の減量化を測定する「給水スポット実証実験」も実施しました。

だしがら活用レシピ

昆布とかつお節のエコふりかけ

材料 (1人分200kcal程度で食べます。)

昆布のだしがら	40g
かつお節のだしがら	15g
白ゴマ	12g
生姜	10g
酒(昆布締め用)	大さじ1
みりん	大さじ2
砂糖	大さじ1・1/3
醤油	大さじ1・1/3
塩	大さじ1・2/3

(※ 調味料)

作り方

- ① 昆布のだしがらを洗い、キッチンペーパーで水気を取ります。
- ② かつお節、昆布をそれぞれ細かく、フードプロセッサーで粗めにかけます。
※大きいものは手で切ります。
- ③ 白ゴマを砕きます。
- ④ 生姜を2mm角にみじん切りにします。
- ⑤ 昆布締め用の酒を使って昆布を締めます。
- ⑥ ②、③、④、かつお節、白ゴマ、調味料を加え、水分がなくなるまで炒めます。
- ⑦ ⑥の生姜を加えて炒め合わせます。

2) 防災減災意識向上活動

学生の防災・減災への意識向上のため、専門家(一般社団法人危機管理教育研究所認定防災クッキングアドバイザー)を講師に招聘し、オンラインによる「はじめての災害食講座」を開催しました。また、埼玉県から賞味期限が近付いている災害救助用備蓄食料アルファ米の譲渡を受け、アルファ米を美味しく食べる、をコンセプトに本学独自の防災強化月間に1回70食のアルファ米おにぎりを8回にわたり(合計560食)学生に無償提供し、防災食を身近に体験し、防災とともに食品ロス削減の意識向上を図りました。



3) ハラスメント

ハラスメントとは、弱い立場の相手に嫌がらせをする行為ことであり、重大な人権侵害です。本学では、ハラスメントに関する改正法が施行されたことから、教職員に対する周知・啓発や関係する学内規程の整備、相談窓口の整理などを行いました。これからも、本学で学ぶ学生や教職員の人権を守っていきます。

なお、国際学院中学校高等学校においても、同様の取組を進めていきます。

4) 公的研究資金等不正防止に向けた取組の推進

本学では、文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づいた基本方針を策定し、競争的研究費（公的研究費）について、最高管理者のリーダーシップのもと、研究費の不正防止に向けた取組みを実施しています。

5) 学院創立記念行事

本学院では、短期大学及び中学校高等学校の学生生徒や保護者、教職員等を対象に、毎年12月に学院創立記念行事実施し、本学院の建学の精神や教育方針等の理解を深めているとともに、式典に引き続き、学院創立記念式典にふさわしい講演や講演を実施しています。2020年には、広島で被爆した木や、東日本大震災で被災した松の木から作ったコカリナを用いて演奏する音楽家に演奏していただきました。2021年は理事長・学長による学院創立記念講話に、学生が「VUCAの時代と私」のタイトルでリフレクション・ペーパーを書き、自らの意見をまとめました。

【国際学院中学校高等学校】

1) 教育環境改善とエコキャンパスの推進

本校では、教育環境改善の取り組みの一環として、電子黒板の導入を進めています。電子黒板を用いたダイナミックな授業展開は、旧来のスタイルよりも大きな教育効果が見込まれます。

また、各施設の照明のLED化も進めています。今回は、MAKOTO HALL（体育館）とグラウンドの照明を交換しました。生徒たちが、快適に学ぶ教育環境と、省エネルギーに配慮したエコキャンパスづくりを今後も進めます。



2) ハラスメント

本校では、ハラスメントに関する改正法が施行されたことから、教職員に対する周知・啓発や関係する学内規程の整備、相談窓口の整理などを行いました。これからも、本校で学ぶ生徒や教職員の人権を守っていきます。

3) 女子制服にスラックスを導入

本校では、2021年からは、女子生徒の制服にスラックスを、新たに導入しました。

導入については、機能性や防寒対策の確保、さらに、痴漢被害を防止する等の効果を目的として実施することとしたものです。

また、ジェンダーフリーの考えに沿った取組でもあります。

Ⅲ. 成果の測定

1. UNGC10 原則を理解し、推進できる教育体制の構築・人材の育成

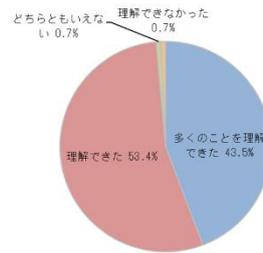
【国際学院埼玉短期大学】

本学教育課程のうち、G C 10 原則と SDG s の実現を目指した授業科目「卒業研究ゼミ」「卒業研究プレゼミ」では、2年間の研究成果を卒業研究発表会にて発表し、学びの深化を図っています。2021年3月からは学生一人一人がまとめた卒業研究論文の評価を軸にすえた「ディプロマ・サプリメント」を発行開始しました。この卒業研究評価においては、ルーブリックを導入し、学生に評価観点・基準を複数回にわたって解説・周知浸透を図り、ディプロマ・サプリメント発行に至っています。

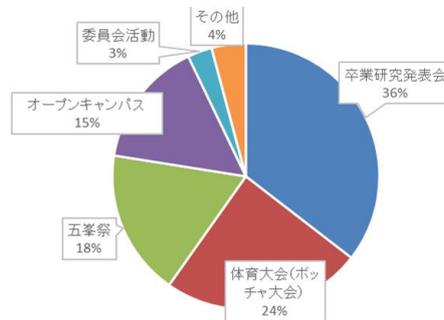
加えて、この2年間を通じた本学独自の教育プログラム、G C 10 原則と SDG s の実現を目指した「卒業研究」により、入学前の SDG s 認知・理解度 16.3%から卒業時 98%と飛躍的に伸びており、大きな成果といえます。

ディプロマ・サプリメント

卒業時 SDG s 認知・理解度



本学では、オリンピック・パラリンピックへの関わりを通して、世界平和に貢献する理念の理解促進を目的に、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と協定を締結し、協力・連携してきました。新型コロナウイルス感染拡大により、学生ボランティアの派遣は実現できませんでしたが、学内での啓蒙活動として、障がい者スポーツ理解を目的にボッチャ大会を開催しました。学生の卒業時調査において、2年間でやりがい達成感が最もあった行事として卒業研究発表会（36%）の次点に「ボッチャ大会（24%）」が上がり、障がい者スポーツを身近に体験し、さまざまな人と協力する意義を理解する機会となりました。この卒業時調査において、卒業研究発表会、ボッチャ大会、五峯祭で実に78%の学生がSDG sに関連した取組を達成度合いが高いと評価しています。



【国際学院中学校高等学校】

2021年4月27日(火)に実施した、台湾台北松山先端産業農業専門学校の生徒たちと本校の中高生による、オンライン国際交流会は、海外の高校生たちとリアルタイムで交流できる大変、貴重な機会となりました。

交流会のメインテーマは、「プラスチックごみによる環境汚染問題」でした。双方の生徒たちが、持続可能な社会の実現に向け、地球規模の課題となっている、プラスチックごみによる環境汚染問題について、双方の生徒間で様々な意見交換がなされ、この問題について、自らの行動が問題解決につながるという強い認識を持ち、これからの行動を深く考えていくという大きなきっかけになりました。

本校はユネスコスクールに加盟しており、ESD (Education for Sustainable Development : 持続発展教育) にも力を入れています。今後も国際的な取り組みを推進していきます。

○2021年 → 2022年 における、アンケート結果から確認できる生徒の行動変容

①SDG s に関する理解を深めることができた生徒の割合 : 62.7% → 94.8%

②SDG s 17 目標達成のために行動できた生徒の割合 : 50% → 66.1%

○SDG s 目標達成のために行動に移すことができた具体的取組

- ・ゴミの分別や減量の取組
- ・卒業研究などの取組
- ・家庭内での取組
- ・プラスチックの使用量削減
- ・部活動
- ・フードロスへの取組
- ・リサイクル活動
- ・文化祭での取組
- ・コンタクトレンズのケース回収

2. 教育課程及び課外活動に組み込んだ SDG s に関連づけた教育プログラムの実践と、学生生徒の自主的・主体的取組を目的とする SDG s への取組

【国際学院埼玉短期大学】

1) 本学が所在する「さいたま市」が、次の目的で実施する“第 11 回学生政策提案フォーラム”に、本学の 2 つの学生グループが主体的に参加しました。

卒業研究ゼミのスタート以来、SDG s を基本テーマに学生は取り組んできました。今年度の学生政策提案フォーラムでは、学内において 3 つのゼミから、学生の参加申し込みがありました。学生は、SDG s を自分の問題としてとらえているばかりでなく、行政機関に、政策提言という形で、直接、働きかけるという行為を通じ、自らが社会の変革を促していこうという行動に出るところまで成長していることが良く分かりました。学生は、確実に行動変容しています。

2) ウクライナ難民支援のためのユニセフ寄付金

ウクライナに関する報道を見るたび心が痛んだ学生たちが、何か私たちにできることはないだろうか、と検討し、卒業式当日に会場に募金箱を設置し学生や保護者、教職員にウクライナ支援のための募金を呼びかけました。総額 20,908 円の善意を寄せていただき、日本ユニセフ協会を通じ、全額「ウクライナ難民緊急募金」に寄付しました。本学が実施した、2021 年の卒業生の成長実感・満足度調査においても、学生が、自ら考え、行動し、何らかの成果を成し得ることで、学びの達成感を実感することが明らかになっております。ウクライナ支援のための募金活動は、額の多寡にかかわらず、学生が SDG s を自分の問題としてとらえ実行に移すという、学生の行動が変容した証であり、学修の成果ととらえられます。加えて、ユニセフからの感謝状・ユニセフ賞・使用済切手寄付に対する礼状は学生の自主的活動の証として、学内に掲示しています。



【国際学院中学校高等学校】

1) SDG s エコフォーラム in 埼玉への参加

2021年1月30日に大宮ソニックシティにて開催された「SDGs エコフォーラム in 埼玉」の高校生スピーチの部で、本校生徒が、自らの緑のトラスト運動に関する取組の経験と本校のSDGsの取組について発表を行いました。参加企業の方からもお褒めの言葉をいただきました。自らの取組がSDGsの取組に繋がっているという事実を理解し、それを他者に働きかけ行動変容を促すという取組であり、こうした地域における持続可能な社会づくりの広がり成し遂げようとする取組は、生徒の成長の姿であり、本校教育の成果と考えます。

2) ウクライナ難民支援のための緊急募金活動

本校の生徒会が、ユネスコスクールの一員としてユネスコ憲章で示された理念を学校現場で実践するために、3日間にわたって、ウクライナ難民支援のための緊急募金活動を行いました。募金活動で集めた金額は14,487円となりました。

また、チャリティ英単語グランプリ開催で得たチャリティ金額4,200円となりました。この2つの取組を合わせた18,687円を、公益財団法人日本ユニセフ協会のウクライナ緊急募金に募金を行い、ウクライナから避難した子どもたちが一日でも早く、通常の平和な生活に戻れることを国際学院中学校高等学校一同、心から祈念しました。

ウクライナ支援のための緊急募金活動は、額の多寡にかかわらず、生徒がSDGsを自らの問題としてとらえ実行に移すという、生徒の行動が変容した証であり、本校教育の成果ととらえられます。

3) 生徒による人命救助活動

本校生徒が、通学途中、病気の発作のため道端でうずくまっている男性を、とっさの判断で人命救助活動を行いました。人の命を守ること、人の命を大切にすること、そして、そのために必要な行動を瞬時に起こすことができた、ということこそ、SDGsが生徒に求める行動の本質であると考えます。そうした行為をやり遂げた生徒の成長に、誇りに感じます。